

令和3(2021)年度県立高等学校入学者選抜の結果について

令和3年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月8日月曜日及び同月9日火曜日、一般選抜が3月8日月曜日、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月8日月曜日、一般選抜が3月18日木曜日に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

令和3(2021)年3月の県内中学校卒業見込者数(前年比297人減)を考慮し、全日制課程の定員を11,475人(前年比200人減)とした。

2 令和3(2021)年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校59校115系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を実施しており、39校87系・科では作文を、18校26科では小論文を実施した。また、学校独自検査は3校3科で実施しており、同じ3校3科で学校作成問題を実施した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜(学力検査)の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は3校3科で国数英の3教科により実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜(学力検査)受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は23校72科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で23名が合格した。

定時制課程においては、満20歳以上の志願者は、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、3名が合格した。

以下、各教科の学力検査問題(全日制)について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	令和3(2021)年度				令和2(2020)年度				平成31(2019)年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	11,475		560		11,675		560		12,035		600	
受検人員	4,874	8,985	148	157	5,059	9,242	201	231	5,215	9,973	198	253
受検倍率	1.82	1.11	1.48	0.35	1.80	1.13	2.01	0.51	1.81	1.18	1.98	0.51
合格人員	3,082	7,777	108	156	3,215	7,894	110	217	3,286	8,325	110	214
合格倍率	1.58	1.16	1.37	1.01	1.57	1.17	1.83	1.06	1.59	1.20	1.80	1.18

※ 受検倍率=受検人員÷定員, 合格倍率=合格人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する知識・理解、適切に表現する能力、正確に理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識・理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉えたり、あるいは作品の描写や登場人物の心情を読み取ったりするなどして自分の考えをまとめて表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材に、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、自分の意見の根拠を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識の確認にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立てることを意図して出題した。

1 の漢字の読みの問題は平均正答率が 91.9%、2 の漢字の書きの問題は平均正答率が 68.2%であった。漢字の読みは、全体としてよく読めていた。漢字の書きでは(4)「縮む」が 83.4%で最も正答率が高く、最も正答率の低い(1)「漁港」が 50.7%という結果であった。日常生活で使用する語彙の確実な定着を今後も期待したい。

3 の表現技法に関する設問の正答率は 62.4%、4 の漢文の書き下し文に関する設問の正答率は 89.3%であった。表現技法の構成については学習を継続し、定着させることが望まれる。

2 は、江戸時代に出版された「天羽衣」を素材として出題した。碁打ち仲間の二人が、同日に生まれた子の代まで睦ましくあることを願う場面を取り上げた。歴史的仮名遣いや動作の主体を答える問題、本文に関する内容などを問う問題を出題した。

1 の歴史的仮名遣いにおいては、正答率が 98.0%とよく読めていた。また、本文全体の内容に合うものを選ぶ設問においても、72.6%という正答率であった。

主語を補いながら読み進める古文の学習の特徴を念頭に、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味

を捉える学習等の継続が重要である。また、言語文化を継承するという観点からも、古文特有の言葉に注目したり、話の面白さを味わったりするなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、石原千秋の「読者はどこにいるのか」を素材として出題した。読者が小説を読むということについて引用を交えながら論じた文章である。

自分の言葉で答えを記述する設問 2 と 5 の部分正答を含む正答率はそれぞれ 84.8%、76.3%であった。記述問題においては、本文の語句を適切に用いて説明する力を身に付けるとともに、書くことに対する前向きな姿勢が必要となる。

説明的な文章を読解する上では、筆者が本文全体を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。その際には、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、論理の展開について考えたりする学習を取り入れることも効果的である。

4 は、寺地はるなの「水を縫う」を素材として出題した。姉のためにウエディングドレスを作り直そうとしている孫の清澄と、祖母である「わたし」の清澄への思いを描いた場面を取り上げた。

4 のドレスを作り直そうとした根拠について問う問題の部分正答を含む正答率が 62.6%とやや低かった。文脈に即しながら適する答えを見つける力を身に付けることが求められる。

文学的な文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動によって、確かな読みの育成につなげていきたい。

5 の作文は、「世の中が便利になること」について、条件に沿って内容を適切に書く能力を評価するものである。

テーマに対する適切な具体例、自分の考えと理由を関連づけて適切に表現することを求めている。普段の生活の中で、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、読み手の立場に立って自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

<令3(2021)> 国語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	97.2%	2	1	98.0%	4	1	89.5%		
		(2)	96.8%		2	82.1%		2	78.3%		
		(3)	95.8%		3	62.8%		3	69.5%		
		(4)	87.2%		4	38.3% (68.2%)		4	41.1% (62.6%)		
		(5)	82.9%		5	72.6%		5	2.3% (19.0%)		
	2	(1)	50.7%	3	1	45.5%		6	63.2%		
		(2)	74.4%		2	51.3% (84.8%)	5	(95.6%)			
		(3)	67.4%		3	84.7%					
		(4)	83.4%		4	66.3%					
		(5)	65.3%		5	18.5% (76.3%)					
	3	(1)	62.4%		6	40.3%					
		(2)	78.0%								
		(3)	85.5%								
		(4)	83.3%								
	4	89.3%									

※ ()内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 各分野において基本的な内容を出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 3 社会的事象について、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力をみようとした。
- 4 地図・統計・略年表等から必要な情報を読み取り、適切に表現する力をみようとした。
- 5 各分野において論述問題を出題し、社会的事象について、見方や考え方を働かせて考察し、表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的 分 野	歴史的 分 野	公民的 分 野	合 計
選 択	10(20)	7(14)	7(14)	24(48)
記 述	3(6)	6(12)	5(10)	14(28)
論 述	2(8)	2(8)	2(8)	6(24)
合 計	15(34)	15(34)	14(32)	44(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

1 は、地理的分野のうち、日本の様々な地域に関する理解度をみる問題である。

様々な資料を適切に活用することにより、日本各地の地域的特色を考察する力をみようとした。

5(2) は、都市における水害の特徴について、中学校で学んだ内容を活用して表現する力を見るもので、正答率は12.1%であった。

2 は、地理的分野のうち、世界の様々な地域に関する理解度をみる問題である。

世界の様々な地域のうち、日本の貿易相手上位10か国・地域を取り上げた。資料をもとに、各地域の人々の生活や文化について、自然環境や社会環境などに着目してとらえ、考察する力をみようとした。

7 は、アメリカ、韓国と比較しながら、中国の経済発展の特徴について、複数の資料を活用して適切に表現する力をみる問題で、正答率は13.0%であった。

地理的分野では、資料を活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させ、思考力や表現力等の育成を図ることが求められている。

3 は、歴史的分野のうち、日本の古代から近世までの理解度をみる問題である。

各時代の資料をもとに、資料が使われていた時代の特徴について、理解の程度をみようとした。

5(2) は、古墳時代における大和政権の勢力範囲の拡大について、資料から読み取ったことと中学校で学んだ基本的な内容とを結びつけ、文章にまとめ表現する力をみる問題で、正答率は5.8%であった。

7 は、資料から時代の特徴を読み取り、古代から近代に至る歴史の大きな流れをとらえる力をみる問題で、正答率は61.1%であった。

4 は、歴史的分野のうち、日本の近代から現代にかけての理解度をみる問題である。

1(3) は、幕末の薩摩藩の動向について、資料から読み取ったことと中学校で学んだ基本的な内容とを結びつけ、文章にまとめ表現する力をみる問題で、正答率は3.3%であった。

歴史的分野では、知識を活用して時代の転換の様子をとらえる学習や、その時代を大観し表現する活動などを通して、歴史的事象について考察・判断したことを表現する学習を充実させることが求められている。

5 は、公民的分野のうち、三権分立、地方自治、経済に関する理解度をみる問題である。

3 は、地方公共団体の財政の特徴について、現代社会をとらえる見方や考え方の一つである「公正」の観点を踏まえ、資料を活用して適切に表現する力をみる問題で、正答率は7.9%であった。

6 は、公民的分野のうち、人権尊重、社会保障、選挙などにおける、現代社会の課題を考察する問題である。

6 は、選挙における課題をとらえ、複数の資料から課題の解決に向けた方向性について考察し、適切に表現する力をみる問題で、正答率は29.4%であった。

公民的分野では、習得した知識や概念、技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりすることが求められている。

社会科の授業では、知識や概念を活用し、資料をもとに社会的事象の意味や意義を考察する学習や、事象の特色や事象間の関連を説明する学習活動が今後も求められている。

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問	題	正答率	
1	1	74.9%	
	2	68.5%	
	3	39.0%	
	4	78.7%	
	5	(1)	78.7%
		(2)	12.1% (32.5%)
	6	59.8%	
7	71.1%		
2	1	68.2%	
	2	54.6%	
	3	38.6%	
	4	61.7%	
	5	33.3%	
	6	73.7%	
	7	13.0% (56.8%)	
3	1	59.1%	
	2	53.4%	

問	題	正答率	
3	3	42.3%	
	4	49.5%	
	5	(1)	77.9%
		(2)	5.8% (70.2%)
	6	42.8%	
	7	61.1%	
	4	1	(1)
(2)			60.5%
(3)			3.3% (14.8%)
2		75.9%	
3		34.1%	
4		38.7%	
5		35.9%	
5	1	(1)	61.9%
		(2)	66.0%
2	84.3%		

問	題	正答率	
5	3	7.9% (54.7%)	
	4	(1)	70.8%
		(2)	62.5%
		(3)	72.8%
6	1	48.0%	
	2	26.3%	
	3	(1)	32.3%
		(2)	63.0%
	4	88.3%	
	5	87.3%	
6	29.4% (68.6%)		

※ ()内は部分正答も含めた割合

数 学

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即して、数学の基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、資料の活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、基礎的・基本的な知識・技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、基礎的な概念や性質に気づき、筋道を立てて説明し表現する力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題を通して、関数的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 5 資料の活用の領域では、代表値や確率に関する基礎的・基本的な問題を通して、統計的な見方や考え方及び確率的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、資料の活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題を通して、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的な思考力、判断力、表現力等を用いて、問題を解決する力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題であり、平均正答率71.1%であった(昨年度は81.9%)。今後も基礎・基本の定着を図ってほしい。特に、平方根の意味の理解、2つの数量関係を不等式の立式、図形の構成要素に着目した四角形の包摂関係に課題がみられた。確実な定着が望まれる。

2 は、三つの領域(図形、資料の活用、関数)における知識・技能をみる問題である。**1**は作図、**2**は確率、**3**は2乗に比例する関数に関する問題であり、正答率は**1**が34.1%、**2**が61.0%、**3**が9.8%であった。**1**は、面積を2等分するという条件からどのような点を作図すればよいかを問う問題であり、**3**は、関数の座標から台形の面積の条件を基に方程式を立式し、正しく処理する力を問う問題である。ここで問われる1つ1つの内容はいずれも基本的な内容である。与えられた条件を正しく理解し、

処理する力の定着が望まれる。

3 は、思考過程を論述させることをとおして数学的に考察し表現する能力を問う問題である。**1**は、大小の袋それぞれに入れるリンゴの個数に関する過不足の問題であり、正答率は42.8(65.0)%(()内は部分正答も含めた割合)であった。何についての方程式を立てているのかを正しく理解し、処理する力の定着が望まれる。**2**は、通学時間を資料として、(1)が代表値、(2)が度数分布表、(3)が一部値が変化した資料に関して、中央値と範囲の条件から変化した値を特定する問題である。正答率は、(1)が64.1%、(2)が70.6%、(3)が1.7(12.2)%であった。代表値や範囲により資料の分布の特徴を正しく捉える学習活動の充実が望まれる。

4 は、図形の領域における思考力、判断力、表現力等を問う問題である。**1**は、条件から中点連結定理を用いることができることに気がつき、根拠を明らかにしながら2つの三角形の合同を論理的に説明する力を問う問題である。正答率は12.4(59.3)%であった。**2**の(1)は、円と接線に関する性質を活用し、線分の長さを求める問題であり、(2)は、円周角の定理により直径に対する円周角は 90° であることを用いて、2つの領域に分けられた部分が半円から直角三角形を除けばよいことに気がつき、面積を求める問題である。正答率は、(1)が47.1%、(2)が9.8%であった。与えられた条件を正しく捉え、中学校で学んだ図形の学習内容と結びつけ、考察の方法を自ら選択し、問題解決を図るような学習活動の充実が望まれる。

5 は、長方形の辺上を動く点と面積について、関数領域における思考力、判断力、表現力等をみる問題である。**1**は、問題場面が正しく理解できているかを問う問題であり、正答率は63.3%であった。**2**は、一次関数の式を求める基礎的な問題であり、正答率は26.2%であった。**3**は、長方形の辺上を動く点と長方形の頂点によりできた図形の面積に関する問題であり、正答率は0.4%であった。関数の学習をとおして、グラフを活用することの意味とそのよさを理解させるとともに、グラフから読み取れることの考察を交えながらグラフを積極的に活用しようとする態度を育むことが大切である。

6 は、1から100までのカードを作る場面において、カードに書き入れる数字についての問題をとおして、思考力、判断力、表現力等を問う問題である。正答率は、**1**が75.9(91.0)%、**2**が6.0(25.9)%、**3**が0.3(3.3)%であった。普段の学習から場面的に確に捉え、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むとともに、日常生活において数学が多く活用されていることを感得してもらいたい。

〈令3(2021)〉 数学学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	94.2%	2	1	34.1%	6	1	75.9% (91.0%)	
	2	94.3%		2	61.0%		2	6.0% (25.9%)	
	3	89.4%		3	9.8% (41.6%)		3	0.3% (3.3%)	
	4	82.6%	3	1	42.8% (65.0%)				
	5	63.1%		2	(1)	64.1%			
	6	49.6%			(2)	70.6%			
	7	73.9%		(3)	1.7% (12.2%)				
	8	74.1%	4	1	12.4% (59.3%)				
	9	67.1%		2	(1)	47.1%			
	10	79.5%			(2)	9.8%			
	11	59.8%	5	1	63.3%				
	12	29.6%		2	26.2% (45.1%)				
	13	85.7%		3	0.4%				
	14	53.0%							

※ ()内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、物理的領域、化学的領域、生物的領域、地学的領域の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活と関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての関心と理解、基礎的・基本的な知識をみるようにした。
- 3 観察・実験についての基礎的な知識・技能をみるようにした。
- 4 観察・実験を通して、自然の事物・現象を科学的に調べ、論理的に思考する力をみるようにした。
- 5 自然の事物・現象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の正答率の平均が 69.2%、記述問題で 68.0%であった。正答率の高い問題は、選択問題のアミラーゼの 89.5%、記述問題のマグマの 81.5%であった。一方、選択問題の化学変化について「食塩が水に溶ける」を誤って選択する割合が高く、正答率は 53.2%と低かった。

2 は、寒冷前線の通過に伴う気象データから、前線の構造を科学的に考察する力をみる問題である。問題全体の正答率の平均は 60%を超えており、概ね知識の定着が図られていた。3 では与えられた情報を総合的に判断し、表現する力が求められた。3 の記号選択の正答率は 68.2%だったが、論述問題の判断理由の正答率は 29.4%と低かった。

3 は、アジサイを用いた蒸散に関する実験を通して、植物の体のつくりとはたらきについて考察する力をみる問題である。4 では与えられた実験方法から推測されるデータを選び、根拠を明確にして判断理由を論述する力が必要である。4 の記号選択の正答率は 50.2%だったが、論述問題の正答率は 6.2%と低かった。明るさによる気孔の開閉と水分の蒸散量を関連付けて適切に表現することができない受験生が多かった。

4 は、直流電流とコイルを流れる電流がつくる磁界について、示された実験方法から実験結果を考察する力をみる問題である。3 の記述問題では電流と磁界の強さ、コイルとコンパスの距離、2つの要素を考察する必要がある、どちらかの内容のみを論述する受験生が多く、正答率 4.5%、部分正答率

50.3%だった。

5 は、電解質水溶液を用いた実験を通して、電池のしくみについて科学的に考察する力をみる問題である。3 の選択問題の正答率は 21.7%と低く、中和による電解質溶液中のイオンの量的変化を考察できていない受験生が多かった。4 では、目的に合った実験結果を得るためにはどのように実験計画を改善すればよいのか、論理的に思考する問題であり、正答率は 33.0%であった。実験を行う際には、実験条件をどのように設定するのかをよく考えて実施してほしい。

6 は、遺伝に関する実験を通して、その規則性について科学的に考察する力をみる問題である。すべての設問において正答率が 50%を下回っており、遺伝の概念が身につけていない受験生が多かった。3 では、孫の遺伝子について考察し、ひ孫の形質発現の割合を求める必要があり、正答率は 13.4%と低かった。

7 は、各地点の標高を示す地図と柱状図の地層の重なり方から、その地域の過去の様子や地層の広がり考察する問題である。3 の論述問題では、堆積岩の粒の大きさを基に水深の変化を考察し、適切に表現する力が必要であり、正答率は 17.8%と低かった。4 では周りの地点データから地層の広がりを考察する問題であり、正答率は 24.5%であった。

8 は、性質の違いから気体を同定する実験を通して、科学的に考察する力をみる問題である。実験の基礎的な技能や気体の性質の理解は、概ね定着していた。3 の実験結果の考察は、中学生に多くある誤概念に関する問いであり、記号選択の反応のようすの正答率は 48.4%だったが、論述問題の判断理由の正答率は 17.2%と低かった。

9 は、凸レンズに関する実験を通して、凸レンズの性質について考察する力をみる問題である。4 問中 3 問において正答率が 30%を下回っており、レンズの概念が身につけていない受験生が多かった。2 では光源からレンズまでに焦点を通らない光の進む道すじを考察する問題であり、正答率は 5.9%と低かった。

理科の学習において、科学的な言葉を理解することにとどまらず、実験観察で得られた結果を基に、計算をしたり、グラフを書いて、仮説を検証したりすることが大切である。また、考察したことを自分の言葉で表現する学習も重ねてほしい。

<令3(2021)> 理科学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率		
1	1	53.2 %	3	葉の表側	55.5 %	6	3	13.4 % (13.5 %)		
	2	53.4 %		葉の裏側	59.6 %		7	1	78.5 % (78.6 %)	
	3	80.8 %		4	記号	50.2 %		2	①	81.9 %
	4	89.5 %			理由	6.2 % (18.9 %)			②	51.8 % (52.8 %)
	5	73.0 % (74.6 %)	4	1	81.6 %	3		17.8 % (36.8 %)		
	6	81.5 % (81.5 %)		2	①	76.9 %		4	24.5 % (24.5 %)	
	7	57.6 % (57.6 %)			②	47.6 %		8	1	59.8 % (59.8 %)
	8	59.9 % (59.9 %)		3	4.5 % (50.3 %)	2	①		64.5 % (64.6 %)	
2	1	86.8 %	5	1	56.5 % (57.3 %)		3		②	64.4 % (64.4 %)
	2	①		44.6 %	2				①	73.6 %
		②		82.2 %		②		65.3 %	3	記号
		③		72.0 %		③	60.2 %	理由		17.2 % (17.7 %)
	3	記号		68.2 %	3	21.7 %	9	1	53.9 %	
		理由		29.4 % (66.1 %)	4	33.0 % (45.6 %)		2	5.9 % (7.2 %)	
3	1	80.4 % (80.9 %)	6	1	37.7 % (37.7 %)	3		27.8 %		
	2	66.3 % (79.3 %)		2	43.4 %	4		20.2 % (44.9 %)		

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る、基礎的な力を主にみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で正しく伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーションの場面を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体の平均正答率は、64.9%であった。1は短い対話を聞いて適切に応答する力をみる問題である。3問の平均正答率は95.0%であった。2は対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は55.0%であり、各小問の平均正答率は(1)が47.5%、(2)が62.5%であった。3はまとまった長さの英文を聞いて、その要点を捉え、英語で答える力をみる問題である。4問の平均正答率は52.2%であった。コミュニケーション能力を育成するためには、英語を聞いて必要とされる情報を正確に把握することのできる「聞く力」を育成することが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題である。1は基礎的・基本的な言語材料を活用した自分の好きな教科と将来の夢についての英文を素材にしている。6問の平均正答率は72.8%であった。2は語句を並べかえ、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。3問の平均正答率は54.5%であった。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力、対話や与えられた資料等に基づき英文を完成させる力及びテーマに沿って英語で自分の意見や考え等を正しく伝える力をみる問題である。

言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。異文化理解をテーマとし、日本とカナダにおける「補助犬」の現状や課題等についての話題を中心とした対話文を出題した。問題全体の平均正答率は28.9%、部分正答を含めると42.3%であった。1の対話の流れを把握しながら、適切な英語を書く問題は、正答率が65.5%、部分正答を含めると66.2%であった。2の資料や絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題は、3問の正答率の平均が19.9%、部分正答を含めると34.3%であった。場面や状況を的確に把握し、適切な表現を活用して書くことが求められる。5の本文を読み、対話の流れを把握しながら要点を捉え、適切な英語を答える問題は、①の正答率が31.9%、②の正答率が1.8%であった。6の与えられたテーマについて英語で表現する力をみる問題は、「社会や誰かのために自分ができる活動」について、具体例を挙げつながらある英文で説明する問題とした。完全正答率は0.5%、部分正答を含めると49.8%であった。自分の気持ちや考えを相手に伝わるように英語で書く力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図りながら、実際のコミュニケーションの場面を想定しながら、英語で表現しようとする取組を日頃から積み重ねることが重要である。

4 は、物語文を素材として用いる読解問題で、物語文の内容を文脈に沿って読み取る力をみるものである。今年度は、職場体験で出会った少年との交流を通して、主人公の心が成長する様を題材とした。5問の平均正答率は26.8%であった。4は、本文中の要点を把握し、登場人物の心情の変化を捉える問題である。2問の正答率の平均は13.5%であり、部分正答を含めると33.1%であった。

5 は、説明文を素材として用いる読解問題で、バナナを利用した環境保護につながる取組についての説明文を出題した。4問の平均正答率は26.1%で、部分正答を含めると31.4%であった。英文を読み、その概要や要点を捉え、適切に日本語でまとめる力などを身に付けるためには、日常的に比較的長めでまとまりのある英文の読解に取り組むことが大切である。

<令3(2021)> 英語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	94.7%	2	1	(1)	81.4%	3	5	①	31.9% (41.8%)
		(2)	98.2%			(2)	67.4%			②	1.8% (1.8%)
		(3)	92.0%			(3)	82.9%	6	0.5% (49.8%)		
	2	(1)	①			64.2%	(4)	74.8%	4	1	74.5%
			②			30.7%	(5)	80.1%			2
		(2)	①			41.9%	(6)	50.3%			3
			②	83.1%	2	(1)	62.6%	4	①	18.0% (37.8%)	
	(1)	40.7% (41.7%)	(2)	43.6%		②	9.0% (28.3%)				
	(2)	71.6% (73.4%)	(3)	57.4%		5	28.1%				
	3	(3)	59.8% (62.0%)	3	1	65.5% (66.2%)	5	1	32.0%		
		(4)	36.7% (40.4%)		2	(1)			43.1% (51.1%)	2	2.5% (23.7%)
						(2)			10.6% (32.0%)	3	27.1%
						(5)			6.1% (19.9%)	4	42.7%
			3		25.5% (43.2%)						
			4	75.0%							

※ () 内は部分正答も含めた割合